平成２８年度
市政レポーター（とまレポ）
活動報告書

平成２９年４月

苫小牧市総合政策部政策推進室市民自治推進課

目　　次

苫小牧市市政レポーター制度について……1
平成２８年度市政レポーター活動実績……2
委嘱状交付式及びレポーター会議概要……3
市長との懇談会……4
レポーターからの意見と市の考え方……6

附録

平成２８年度市政レポーター名簿
苫小牧市市政レポーター設置要綱

市政レポーター制度について

市政レポーター制度は、市政に関する御意見や御提案をいただき、市政運営の参考とすることを目的としています。

平成２８年度は「つなごう　スポーツ大作戦～人と人　苫小牧の未来　次世代を担う子どもたちへ～」をテーマとして、市政レポーターの皆様に関連イベントへ参加いただき御意見や御提案をいただきました。

御参加いただきました市政レポーターの皆様には、改めてお礼を申し上げます。

本報告書は、平成２８年度市政レポーターの活動を取りまとめたものです。

今後もいただいた御意見を基に、より良い市政運営を進めていきたいと考えています。

平成２８年度市政レポーター活動実績

開催日	活動内容	概要
平成２８年５月２日	委嘱式及び 事業説明会	・市長からレポーターへ委嘱状を交付 ・事業概要の説明
平成２８年９月２２日	とまレポ活動 （第１回）	「苫小牧市スポーツ都市宣言５０周年記念式典」の参加
平成２８年１０月１日	とまレポ活動 （第２回）	「つなごう市民大運動会」の参加
平成２８年１０月１０日	とまレポ活動 （第３回）	「ウォーキングフェスティバル　すこやかロードを歩こう in 苫小牧」の参加
平成２９年１月２１日	とまレポ活動 （第４回）	「車椅子バスケットボール教室」の参加
平成２９年２月１８日	とまレポ活動 （第５回）	「アイススレッジホッケー教室」の参加
平成２９年２月	意見書提出	意見書の提出
平成２９年３月２３日	市長との懇談会	レポーターと市長との懇談会の実施

委嘱状交付式及び事業説明会概要

１　委嘱状交付式

（１）日　時　　平成２８年５月２日（月）　午後３時～午後３時３０分

（２）場　所　　市庁舎５階　第２応接室

（３）出席者　　市政レポーター８人

（４）内　容　　①市長から委嘱状を交付

②レポーターの自己紹介

③市長と懇談

２　事業説明会

（１）日　時　　平成２８年５月２日（月）　午後３時３０分～午後４時

（２）場　所　　市庁舎５階　第２応接室

（３）出席者　　市政レポーター８人

（４）内　容　　①制度概要及び活動内容について説明

②質疑応答

市長との懇談会

１　日　時　　平成２９年３月２３日（木）　午後１時３０分～午後２時３０分

２　場　所　　市庁舎５階　第１応接室

３　出席者　　市政レポーター６人

４　市政レポーターの主な意見

・苫小牧市スポーツ都市宣言５０周年記念式典は、参加者が少なく盛り上がりに欠けていた。もっと多くの人に知ってもらうために、もっと早い時期から周知、動員の方法を検討する必要がある。

・つなごう市民大運動会は、活発に機能している町内会は幅広い年齢層が参加して楽しそうだったが、もっと参加団体があっても良かったと思う。関心の無い方も多くいたので、今後も開催するなら幼児連れや高齢者も引っ張り出すようなプログラムを考えることが必要である。

・ウォーキングととまチョップポイントの組合せは、健康と地域経済を結びつけた分かりやすい取組で、参加者の増加が期待できる。

・車椅子バスケットボール教室では、障がいを持つ方と健常者が共に楽しむ姿には大きなエネルギーが隠されているように感じた。このような活動を更に広く市民に紹介していくとともに、障がいの有無にかかわらず市民が多様なスポーツを体験したり取り組める環境を積極的に作ってほしい。

・アイススレッジホッケー教室では、障がい者と健常者が共にゲームを楽しむことができる日の来ることを心待ちにしているという体験者の一言が大きなインパクトを与えた。今後は、スポーツと福祉と男女平等参画とのコラボレーションで「２０１７日本女性会議」に参加される道外の方にも体験していただきたい。

・各イベントが行われたことを知人に聞くも知らなかったとの返事が返ってきた。今後はイベント内容を市民へ事前に伝える方法の検討も必要だと思う。

・イベントを運営している市職員の熱い思いなども書いてあると、形式的なポスターより伝わりやすく親近感があってよい。

５　市長の主なコメント

・苫小牧市スポーツ都市宣言５０周年記念式典が少し寂しかった。苫小牧にある各スポーツ団体に案内を出して、前列にその人たちが座るスペースを用意したが全然人が来ていなかった。歴史ある団体や選手を多く抱えている団体に直接足を運んでお願いしてくることも必要だったと思う。

・飛行場が近いという利点を生かし、陸上競技場などのスポーツ施設を充実させることによって、合宿誘致などを今まで以上に取り組みたい。

・平成２８年４月から障害者差別解消法が施行されて、苫小牧市としてもスポーツに限らず差別の解消に向けた色々な取組を行っていきたい。

市政レポーターからの主な意見と市の考え方（要旨）

※８人からの意見を項目別に分けてまとめています。

○苫小牧市スポーツ都市宣言５０周年記念式典

・「丹羽孝希選手の銀メダルを祝う会」と会場が分散されたこともあるが、参加者は少なかった。卓球関係者への働きかけや選手たちのサイン会など時間の制限はあるが、工夫の余地はあったのではないか。

・会場の空席が多く盛り上がりに欠けていた。周知、動員の方法を検討いただけたらと思う。

・わずかな観衆だと会場は文化会館の方が良かった。狭い会場で立ち見が出る方が盛況だと感じる。

＜回答＞
　記念式典の開催につきましては、５０周年記念実行委員会にも当初からお知らせをしており、各競技団体をはじめ関係機関に案内をして、更にポスターやホームページ、広報とまこまいなどで周知をしてきましたが、残念ながら市民会館大ホールの空席が目立つ状況でした。各競技団体へ積極的に動因をかけるなど、集客に対する周知方法について今後の課題となりました。
　丹羽選手をはじめ本市にゆかりのある方々をお招きいたしましたが、サイン会などの時間がスケジュールの関係で設けられなかったことは残念と感じております。

○つなごう市民大運動会

・市民が一同に集うという点では、もっと参加団体があっても良かったと思う。活発に機能している町内会は幅広い年齢で参加して楽しそうだったが、出ようにも出られない町内会にも目を向けていただきたかった。

・協賛企業ももっと募られて、飲食ブースがもっと出店があれば良かったと思った。

・様々な人に大運動会のことを尋ねましたら、全く無関心の方がほとんどでした。今後も開催するならシャトルバスを用意したり、幼児連れやあまり元気の無い高齢者を

引っぱり出すようなプログラムを考えることが必要です。

＜回答＞
　市民大運動会については、１，０００人の参加者を目標としておりましたが、予想を大きく上回る１，２００人の市民に参加をいただきました。
　市民周知としては、苫小牧民報への折込チラシ、市内小中学校、町内会、各競技団体などにチラシを配布してきました。
　当日は、参加者からアンケートの協力をいただき、今後も実施してほしいとの声も多く寄せられました。今後開催する機会があった際は、今回の反省を生かした企画をしていきたいと思います。

○ウォーキングフェスティバルすこやかロードを歩こうｉｎ苫小牧

・ウォーキングと地域通貨のとまチョップポイントとの組合せは、健康と地域経済を結びつけた分かりやすい取組で、参加者の増加が期待できる。

＜回答＞
　とまチョップポイントの付与については、当面指定するスポーツイベント参加者に付与していきたいと考えています。

○車椅子バスケットボール教室

・障がい者スポーツ大会の支援や体験会の開催は、今後も更に広く市民に紹介していくとともに、障がいの有無にかかわらず市民が多様なスポーツを体験したり取り組める環境を積極的に作っていってほしい。

・障がい者スポーツにもっと様々な人がふれる機会が増えると良いと思う。そのためにはイベントが増えるのはもちろんだが、情報を広く伝えていくことも大切ではないかと思う。小・中・高校での呼びかけや、他のスポーツ大会などでの呼びかけ、インターネット等での情報公開等により多くの人に活動を知ってもらい、足を運んでもらうことができれば、スポーツを通じて、障がいを持った方々への意識が変わっていくのではないかと思った。

・規模が小さく、参加人数は体育館一つで足りてしまう様子であった。集客率を高め

ることにも力を注ぐべきではと考えます。多人数大規模で行うことが、市として一体感を持ち、より良いまちを作ることができるのではないかと思う。

＜回答＞
　近年、障がい者スポーツに目が向けられるようになり、パラリンピックでも多くの日本人が活躍をしています。本市でも、今年７月９日（日）に第５５回北海道障がい者スポーツ大会（陸上競技、車椅子バスケットボール）が開催されますので、多くの市民が会場に足を運んでいただけるように周知していきます。

○アイススレッジホッケー教室

・スポーツと福祉と男女平等参画とのコラボレーションで「2017 女性会議」に参加される道外の方にも体験していただきたいと思う。

・競技のＰＲ方法として、新ときわスケートセンターにアイススレッジを何台か常備し、特に中高校生には安く又は無料で貸しスケートの様に貸し出す。係員が乗り方も教えて、まずは遊び感覚で誘うことで、他の種目の競技者も夢中になるのでは。

＜回答＞
　アイススレッジホッケーについては、日本アイススレッジホッケー協会でも競技人口の増加と普及のために、教室を開催していきたい旨の意向があると伺っています。新ときわスケートセンターは、アイススレッジホッケー対応のリンクとなっており、北海道ベアーズや日本代表が練習会場として利用されています。貸し出し用のスレッジを用意して、一般滑走の時間帯で利用するとなると、安全面を考えるとスティックを使用するため難しいと思いますが、今後教室を開催する際には、多くの市民に体験していただけるように広くＰＲしていきたいと思います。

○スポーツ大作戦のイベントについて

・いくつかのイベントに参加したが、参加者で一番多いのが市役所関係者（家族含む。）だと感じた。一般参加者がどれだけいるのか正確に判断することはできないが、御年配の層の方や学校関係のゲスト出演等があった時にその関係者が集まっていて、少し偏りがあるのではないかと思う。対策案として、テーマをもっと親しみやすい、印象に残るものにすると良い。聞くだけで「おもしろそうだな」、「何をするんだろう、興

味があるな」と思うようなものにすることです。告知の方法もポスターを作った場合の色合いや目を引きやすくし、楽しいイベント等であれば、もう少しくずしたイメージでも良いのではないかと思った。参加する人にとっては、イベントが市の主催なのか、民間なのかは関係ないことだと思う。それならばもっと行きたくなるようなキャッチーなものがいいのではないかと思う。ホームページの情報は告知というよりはチラシやポスターを見てそれを詳しく知りたい人が調べるものだと思う。ホームページの構造なのかもしれないが、ＰＤＦしか載せていないものが多いと思う。そのＰＤＦがチラシより、内容が詳しいものであればまだ良いが、ポスターと同じものが載せてあるだけというイベントもあり、これは不親切だと思う。これから更にネット社会になると思うので、絶対に改善させたほうが良いと思う。またイベントを運営している市職員の熱い思いなども書いてあると形式的なポスターより伝わりやすく、親近感があって良い。

・各イベントが行われた事を知人等に聞くも知らなかったとの返事が返ってきた。今後はイベント内容を市民へ事前に伝える方法の検討を願います。

○苫小牧市スポーツ都市宣言５０周年記念の周知について

・記念すべき年をもっと多くの人に知ってもらうために、早い時期に告知すればよかったのではないかと思う。

＜回答＞
　情報化社会が進み、周知の方法が広がってはいるものの、年齢層によってはうまく活用できないケースもあります。ホームページやチラシ、ポスターの作成時には、ご指摘のあった参加を促すような工夫をして作成はしておりますが、今後広告物を作成する際には、ポスターなどを観る人の視点から興味を持っていただけるような内容を考えていきます。

○第１１回全国高等学校選抜アイスホッケー大会について

・観客が少なく、少々寂しかった。どの競技でも１人でも多くの観客がいると選手は張り切るものです。特にアイスホッケーは苫小牧のお家芸ですから、より多くの市民がのぞいて見るくらいはしてもらいたい。そのためには、ポスターが市内各所に掲示されていたが、試合日程や有料・無料、問い合わせ先などが不明であった。隣りで開

催されている港まつりの涼みがてらのぞいてもらうような工夫もあっては。

＜回答＞
　御意見ありがとうございます。確かにポスターに試合日程が入っておらずどこの高校が参加しているか分からなかったので、改善する余地はあると思います。また、港まつり会場内でアナウンスを入れていただいてますが、会場内の大型ビジョンが今年度もあれば、これを活用したＰＲも考えていきたいと思います。

○北海道日本ハムファイターズイースタンリーグ公式戦について

・苫小牧のファイターズファンが大勢詰め掛け楽しんでいた。是非、毎年開催してほしい。

＜回答＞
　昨年のイースタンリーグは、これまでにない観客数であり市内外から多くのファンが駆けつけてくれました。
　イースタンリーグの開催は、毎年意向調査が球団からあり、申し込みのあった市町村の中から開催地を決定することになっています。２年続けて同じ市町村で開催というのがあまりないようですので、またタイミングをみて手を挙げたいと思います。

○苫小牧市で開催されるアイスホッケー・高校野球大会について

・市はアイスホッケー大会を後押しする方法として、会場でとまチョップポイントを５００ポイント位出すことです。それでも心配するような人数が集まるとは思わないが、実施しないよりは良いのでは。このＰＲは広報とまこまいで周知してみては。高齢者は全員にＰＲするのは困難です。そこで、スポーツに関心のある人はスポーツ施設を利用しているので、その時に有料の大会なら無料招待券を配布したら来ると思います。ＰＲは施設に掲示されている団体のポスターに加筆すればよいことです。高校野球大会も有料なら、高齢者のスポーツ施設無料利用券の提示で無料観戦できれば来ます。とまチョップポイントも出して、市で負担してくれれば良いのですが。

＜回答＞
　アイスホッケーや高校野球に限らず、全てのスポーツ大会の運営はほとんどが競技団体となります。大会を開催するには、会場費をはじめ様々な経費がかかり、入場料

は大会運営の貴重な財源となっています。
　とまチョップポイントは、基本的には市の事業に参加いただいた方に対して付与することにしていますので、現時点では難しいと考えています。

○スポーツとリハビリテーションとのコラボレーションについて

・現在の医学はリハビリテーションで運動機能を回復するようになっているので、スポーツもリハビリテーションの一つとして考え、実行することが、生涯スポーツだと思います。スポーツに関係ない人たちにもスポーツの楽しさを知ってもらうため、例えば車椅子テニスなど、苫小牧市でも試行されては。

＜回答＞
　リハビリテーションは医療分野の機能回復として行われているため、医師の判断を受けてスポーツに参加していただきたいと思います。
　市が毎年実施しているウォーキング事業は、子供から高齢者まで無理なく参加できます。近年、認知症予防にも効果があると言われていますので、福祉施設などにも周知をして多くの方に参加していただければと思っています。

○育児中の人にスポーツを楽しめる支援について

・シルバー人材センターに似たようなシステムを考えて、施設にボランティア登録された高齢者を一般開放や教室に来た親の子供を体育館とは別室で手助けさせてはどうか。

＜回答＞
　現在、本市において子育てをサポートする制度が増加してきております。親の用事などで短時間子供を預かる市の事業もありますので、このような社会資源を活用していただければと思います。

○スポーツサークルについて

・世間は家族が別れて暮らすことが多く、子供と祖父母が何か一緒に行うことは、特

別なこと以外にない。スポーツを通じて一緒に行えるサークルを試行すべきです。

＜回答＞
　少子高齢化や核家族化、地域からの孤立化が増加していると言われていますが、町内会でも運動会を行うなど家族が一緒に参加できるスポーツを実施されています。市としましても、多くの市民が参加しスポーツを通じて家族や地域との交流が深まる事業を考えていきたいと思います。

○苫小牧市のスケート環境について

・苫小牧は、やはりスケートが文化の街であることを痛感した。少子化の中、子供の６人に１人が相対的貧困に陥っているといわれている昨今であることを踏まえつつ、スケートの上達にはお金と親の手間が必要だが、それがそろわない子供たちにも、誰でも、漏れなく、スケートに触れて、楽しんで、次世代に継承していく環境でスケート人口が先細りすることのない取組を展開してほしい。

＜回答＞
　市では、氷上スポーツ育成事業として幼児や小学校低学年を対象としたスケートやアイスホッケー、スピードスケート教室を実施しています。大変人気のある教室であり、毎年定員を超える申し込みがあります。この教室に参加していただいた子供たちのほとんどが、少年団に加入し競技者として活躍しています。
　この事業については、スケートのまち苫小牧として継続していかなければならないと考えています。

○スポーツ関係施設について

・宝の持ちぐされにならないような対策が必要である。特にスポーツには縁がないと思っている方の話などを参考にするべきである。

○緑ヶ丘公園陸上競技場・庭球場の活用について

・スポーツ都市と自慢するには、市民の利用者が多いことはもちろんだが、他の市町

村、特に本州の人たちに利用していただくことが大切です。それは夏期における部活・同好会の合宿をしていただくＰＲ活動です。ＰＲはインターネット上が多いが、他にも専門誌に広告を入れるのも効果があります。また部活・同好会の移動はほとんど大型車両なので、フェリーの発着が多い苫小牧は便利です。そのような人たちを歓迎してくれる宿泊所は何軒かあるが、多い方が良いはずです。苫小牧の夏期は軽井沢によく似ており、全ての屋外スポーツの合宿に適しています。雨天時は市内や近郊の観光を勧めて、時にはガイドを行ってみては。スポーツ都市の看板を掲げて営業努力をされてはいかがか。

＜回答＞

毎年、関東や関西などの企業や大学を訪問して、本市でのスポーツ合宿のＰＲ活動を実施しています。その結果、陸上やアイスホッケーなどで合宿を行っていただいています。また、雪解けが早い本市の優位性を生かし春先の合宿を誘致するために、札幌圏の高校を訪問しテニス合宿のＰＲも実施しています。今後も引き続き、スポーツ合宿や大会の誘致活動を実施していきます。

附　録

○　平成２８年度市政レポーター名簿

○　苫小牧市市政レポーター設置要綱

平成２８年度市政レポーター名簿

（５０音順、敬称略）

	氏　　名	選任区分
1	青木　喜久	公　募
2	伊藤　優子	
3	伊藤　由紀子	
4	加藤　舞	
5	杉澤　寧々	
6	西川　弘	
7	山本　卓	
8	吉度　厚彦	

任期：平成２８年５月２日から平成２９年３月３１日まで

苫小牧市市政レポーター設置要綱

（目的）

第 1 条　市政の重要な取組について、広く市民の参加を求めて理解を深めるとともに、意見、提案等を聴取し、市政運営の参考に資することを目的として、苫小牧市市政レポーター（以下「レポーター」という。）を設置する。

（職務）

第 2 条　レポーターの職務は、次のとおりとする。

(1) 市政の特定事項に関する事業に積極的に参加し、意見、提案等を行うこと。

(2) 市長懇談会や必要な会議等に出席すること。

(3) その他、市長が必要と認めること。

（資格）

第 3 条　レポーターは、市内に住所を有し、市政に対する理解と協力の意思がある 18 歳以上の者とする。ただし、次の各号のいずれかに該当するものを除く。

(1) 高校生または高等専門学校 3 年生以下の者

(2) 地方公共団体の議会議員

(3) 公務員

(4) 市政モニターを含めて、レポーターの経験が 2 期を超える者。

（定数）

第 4 条　レポーターの定数は、10 人以内とする。なお、欠員が生じたときは補充しない。

（任期）

第 5 条　レポーターの任期は 1 年（委嘱の日から翌年 3 月末日まで）とする。

（委嘱）

第 6 条　レポーターは、公募に応じた者の中から、年齢、性別、地域、職業等を考慮し適当と認める者を選出し、市長が委嘱する。

（委嘱の取消）

第 7 条　市長は、レポーターが次の各号のいずれかに該当するときは委嘱を取り消すことができる。

(1) 市内に住所を有しなくなったとき。
(2) 第3条第2号から第4号のいずれかに該当することになったとき。
(3) 辞任の申し出があったとき。
(4) 前各号のほか、市長が取り消しの必要があると認めたとき。

（謝礼）

第 8 条　レポーターの職務を遂行した者には、年間 5,000 円の謝礼金を支払うものとする。

（意見等に関する処理）

第 9 条　レポーターから提出された意見、提案等は、担当部課へ回付し、検討のうえ市政運営の参考に資するとともに、活動報告書として取りまとめ、市のホームページ等で公開する。

（事務局）

第 10 条　レポーターに関する事務は、総合政策部政策推進室市民自治推進課において処理する。

（その他）

第 11 条　この要綱に定めるもののほか、レポーターに関し必要な事項は、そのつど市長が定める。

附　則

1　この要綱は、平成24年4月1日から施行する。
2　苫小牧市市政モニター設置要綱（平成18年4月1日改正）を廃止する。